

第 43 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 25 年 10 月 30 日(水) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8 名
- 出席委員 8 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、桑田政美、須貝昭子、
高谷和彦、中 宏、中村 保、牧野直子
- 以上 8 名
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
永田 純子 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 ①「みのお見守るコミュニティ」
②「聞かせて！ペット自慢」
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回は、朝のワイド番組「モーニングタッキー」から2つのコーナーをお聴きいただきました。

1つは、毎月第1月曜日11時放送の「みのお見守るコミュニティ」というコーナーです。パーソナリティのYoshie（よしえ）が、自身の子どもの送り迎えの際に、校区内の青少年を守る会のかたと出会うチャンスがあり、お話を伺う中で生まれたコーナーです。番組自体は、箕面市内各校区の青少年を守る会のかたをゲストにお迎えし、日ごろの活動内容や活動への思いをお話していただいています。「こんな思いをもって自分たちの子どもを守ってもらっている」ということを、ぜひ、保護者や地域のかたに知っていただき、親しみを感じてほしいという思いで放送しています。

もう1つは「聞かせて！ペット自慢」。毎月第2水曜日11時に放送しています。パーソナリティの千波留が、ペットに対する家族愛を日々感じており、家族として、さまざまな動物と一緒に暮らすみなさんの声を発信したい、また、「話したい」というかたが多くいらっしゃるのを始めたコーナーです。ペットとの写真をブログや情報紙でもご紹介しています。

(2) 審議

委員：2つのコーナーを聴いて、まず共通する部分から話しますと、青少年を守る会のかたは、たいへん箕面に対する愛情が感じられる。それから、ペットのかたは、犬のロッキーに対する愛情が目に見えるように感じられる。たいへん爽やかな、というか、優しい番組で、このコーナーそのものについては文句を言うようなものではありませんでした。パーソナリティのかたも共感が持てる語り口で、ゲストのかたも、本当にお話がお上手で、どちらがパーソナリティでどちらがゲストか分からないほど

(笑)。それぞれについて、こうした方が良いのかなあという点も言っておきますと、「みのお見守るコミュニティ」については、自分の生い立ちも含めていろいろ語っていただいたんですけど、コミュニティ活動をこれからやりたいと思う人に対しての情報が全く無かった。例えば、「どこに連絡したらこういうコミュニティ活動に参加できるのか」とか、「青少年を守る会って何人くらいいて、年齢層は？」とか。それから、「聞かせて！ペット自慢」については、「犬を飼う前に2週間のトライアル期間がある」という話は良かったと思いますが、例えば最後にパーソナリティが言われた「犬を飼う場合、ペットショップからではなく里親とか保護されている犬も考えてみてほしい」というコメントも非常に良かったと思うんですが、ペットを飼う上での…「悩み」みたいな、例えば質問に対して「自分はこうしているよ」という答えとか、出演者とリスナーとのやりとりみたいなことがプラスされると、コーナーがもっと良くなるのかなという思いで聴いていました。

委員長：ありがとうございます。続いて、お願いします。

委員：「みのお見守るコミュニティ」は、青少年を守る会が取り上げてもらえて、本当に良いなあと思います。今回のゲストのかたも校区の副会長を長くされてらして、苦労話を伏せてお話くださっているところが聴きやすかったんじゃないかと思います。青少年の健全育成の面で、地域的な問題が個々・校区ごとにありますから、それを拾い上げて、発信できて、それに対するいろんな意見が聞けたら、たいへん良い番組ではないかと思います。「聞かせて！ペット自慢」の方は、ペット好きな人にはたまらん番組ですね。でも、「飼う」ということに対する責任が発生してくるということで、皆さん飼うときには悩まれたり相談されたりして、お飼いになっているので…飼えば必ず家族の中の仲介役みたいなことをしますからね。何か情報交換みたいなことがひとことあれば、番組としてはさらに先に進めると思います。

委員長：どうもありがとうございます。確かに、ペットを飼われているかた、本当にこの番組にすごく興味があって、楽しいと思います。

委員長：青少年を守る会だけでなく、箕面のいろんな活動、福祉関係は校区ごとにいろんな活動をしていますので、そういったことを順番に番組を組んだら面白いかな、というところもありますので、1回考えてみてください。それでは、次のご意見をお願いします。

委員：今回、かなりリハーサルされたのかと思うくらい内容が良かったと思います。「ペット自慢」の方は、パーソナリティのかたもペット好きなんでしょうね。上手く話を引き出されて、ゲストのかたも、飼うきっかけなど、いろいろお話されてすごく分かりやすい番組でした。その半面、病気のこととか、予防の仕方とか、ペットとの距離の置き方とか、そんなことも分かるような話になっていたら良いのかなあ、と感じました。

委員：私も同じような感想なんですが、プラスアルファとしては、まず守る会のかたのお話などは、自分もやはり同じように、地域に子どもたちと一緒に育てられて、役もしてお返しをしたいという気持ちがすごく良く分かって、良い引き出し方もされていて、良い番組だなあと思って。自分のことを振り返りながら、思い出して、「ああ、懐かしいな」みたいな思いで聴いていました。先ほども言うておられましたが、聴いているリスナーのかたたちもやってみようかな、という情報があれば良いなと思いました。それと、ペットの方は、犬種を言われても、なかなか想像できないかたもリスナーにはいらっしやると思うので、タッキーが発行している情報紙のペット自慢のコーナーで写真掲載していることをもっと広報してほしいと思います。それをきっかけにほかの情報にも目を通してもらえるような誘導もできるかなと。

委員長：箕面はペットを飼われてるかた、多いですね。お散歩のときに、「見守り隊」みたいに、ワンちゃんと一緒に地域を守るという活動も生まれているので、そういう紹介も何かのタイミングでやっていただけたらうれしいなと思って聴いていました。それでは、次のご意見をお願いします。

委員：どうも私は全く違った意見が…。タイトルを見て、聴いて、それでその企画意図を見て、もう一回聴いて…というやり方をしてるんですけど、そういう観点からちょっと言わせていただきます。まず、皆さんおっし

やるように、テンポ、絶妙ですよ。非常に良かったのですが、強いて挙げれば我々NPO やっている者からすると、ふつうは、「我々はこのように思っている」という企画内容の「活動や子どもたちへの思いを伝える」ということが、やっぱりいちばん最初に出てこないといけないんですが、どちらかというと動機だとか、そっちのほうに非常に入り込んでいて、面白かったんですが、ひとくちに言うと、そういう子どもたちへの思いとかメッセージだとか、「何のためにこれを行っているのか」だとか、その辺のことが全く伝わってこなかったもので、そういう意味では残念だったな、と。それから、「聞かせて！ペット自慢」については、最初タイトルを見て、「うちのペットはこんなにかわいい」とか「こんなことができるよ」という内容だと思って聴いたのですが、そうじゃなかった。逆に言うと、企画意図の「人とペットの豊かなくらし」についてはきちっと伝わったんじゃないかなと思います。例えば、イベント的に「ペット自慢」のかたがたくさん集まって、「うちはこんなにかわいいよ」ともっとたくさんの人に言ってもらえるような内容があっても良いのかな。そのときに情報紙とうまくミックスさせて、イベント性も含めてやっていくともっとこの番組が広がるんじゃないか、というイメージで聞いていました。

委員：ありがとうございます。では、次。

委員長：ゲストのかた、声がよく通っていて聴きやすかったです。テンポも。内容的にもそつなくお答えになっているので…。守る会は連合組織なので、これから2回3回とお話をうかがっていくと、多分同じようなコメントが出てくると思うんです。守る会の役に入って、経験して、自分にとっては力になったとか、経験させてもらって良かったとかいうことが、いろんな人の口から同じように出てくるんじゃないかな、と思うんですが、そのところをどう次に引き出していくかがポイントだなと思いました。それと、難しい悩みとかは、なかなか言いにくいですよ。この放送の中でね。だから、どうしてもきれいなところだけ言って、「とてもためになった」とかいう風な言葉になってくるかと思うので、ほんとうにその中で出会ったいろんなゴタゴタであるとかはなかなか表に出ないと思いました。そこをどう乗り越えていくかっていうところがちょっ

と工夫が要りますね。「ペット」の方は、ペットとの出会いとか、家族との話し合いをして飼ったとか、そういったやりとりがとても良かった。犬を介して家族が育まれていくこととか、もうひとつ欲を言えば、ペットを通してのコミュニティと言うんですかね、子育てを終えた人が地域の人と出会うときにペットを介して地域のつながりができるということがあるので、家族から一歩出たコミュニティ…ペットコミュニティというか、そういう視点が入ってくると面白いかな、と。

委員長：私ですが、「見守るコミュニティ」の方は、確かに受け答えはどちらも良かったし、パーソナリティの方も良くて、お答えになる方のほうが逆に、上手に喋られていた感覚がありました。やりとりは良いんですが、もうひとつぐっと入っていかない、と言うんですか、時間をすっとうわべだけ流していったような感じがしました。「ペット自慢」の方は、ゲストのかたがとてもお話が上手で、持っていくかたが上手と言うんですか、犬とのやりとりを通してゲストのかたの人柄とか、関係とか、いろんなものを感じて、犬の話からゲスト自身の生活のあり方がじわっと、ほのぼのとした感じで受け止められて、ほんとうに箕面の住民らしい感じだな…と思って感激しました。ついでなのですが、これを聞いていてものすごく感じたのは、これは箕面らしい、箕面を表現するひとつの部分だなと。「箕面らしいものを売ろう」「箕面らしくありたい」とそういうことをおっしゃるんですけど、「ほな箕面って何やねん」って言ったら土産物で言ったらもみじの天ぷら…ほかもっと良いものないのか、という風な感じで詰まっている。「箕面らしい環境はどこだ」と言ったら、それももうひとつパンチが無いなあという感じ…「箕面らしさ」というのは、箕面として、住んでいるところ、食べ物、お店、お土産、皆さんの住んでいる状態とか、いろんなことを集約しながらいま売っていかうと一生懸命になっているんですよね。そんな中で、こういった雰囲気は箕面らしいのかなと思いました。

委員：例えば、「ペット自慢」。毎月一回、十年続いたときに、面白い人がどれだけ見つかるか大変だなと。続けるときに、どういう風にもっていったら一番良いかというのを番組審議会でも考えていくべきかと。

委員：一応、ラジオの公共放送ですから、自分たちはこんなことをやってますというのは必要です。楽しんでやってます、これもけっこうなんですよ。ただ、やっぱり社会に対して「こんな風にしたい」というメッセージがないと、やっぱり公共放送にならないと思うんですよね。公共放送ですから、基本的には「社会のためにこういうことをやっています」、そこが出てこない。聴取率というか聴く人を増やすというのもそれなりに必要ですけど、ちょっとそれでは物足りない感じがしますね。

委員長：それでは、2つの番組に対していろんなご意見いただいたので、その他の番組でご意見ありましたらよろしくをお願いします。

委員：タッキーが主催しているいろんなことをやろうと思うと大変だと思うんですが、どこかと一緒に共催して、あたかもタッキーがやったような、そういうものは今後どんどん増やしていかないと。やっぱりもっとタッキーが普及しないと。

委員：箕面市の防災マップによると、如意谷地域や北小周辺や平和台が危険な土砂災害の発生する地域に指定されています。そのレベルはレッドゾーンからイエローゾーンまであるんですけど、そういうときにテレビなどでも早めの避難情報が流れていますが、タッキーにそういう情報が集まってこなければ放送もできないので、いろんな地域の状況を、サポーターみたいなかたちで、情報として入れてくれるような人たちを何人か確保しておいて、各地域の情報をいち早く伝えるシステムを作れないかと。タッキーを通じた防災情報の集約とか伝達というのをできないかな、と思ったんですが。

委員：応援団モニターとするか市民モニターとするか、やっぱりしくみをつくったほうが、いいですね。

事務局：はい。

委員長：本日はどうもありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 25 年 10 月 30 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会